

ふるさと応援団木島平会会報

「ひつこじいだ」信州弁 土屋辰志（北鴨出身）

11月1日、東京都調布市の緑ヶ丘小学校で「二どもあそびはくらんかい」が開催されました。このイベントは、調布市内の市民活動団体による子どもたちの体験学習型展示ブースの見本市で、子どもたちの総合的学習や地域との交流を目的に毎年調布市内の小学校で開催され今年で7回目となりました。

木島平のブースは、毎年自然をテーマにしており、今年はスギ板に小枝などを貼り合わせて作る「小枝アート」を出店しました。体験した子どもたちは、競い合うように自分の好みの枝や丸いチップ材を手に取り作品を制作していました。地球的規模で環境破壊が進む中、身近な体験を通じて少しでも自然の大切さに目を向けてもらえればと思います。



▲約70人がブースに訪れ創造性豊かな作品が揃いました。

そんな「びょってない」格好で「しようしゅく」ないか！「ちよんこずいて」お客に好かれるわけがない。突然部下を叱る上司の声が事務所内に響き渡った。

何だろうこの抑揚のあるしゃべりは、おかしくてどこか愉快で遠い昔、確かにどこかで聞いた覚えがある。これは生まれ在所の木島平村だ「信州の方言」だ。叱る方も叱られる方も真顔でしたからふきだす訳にも行かない、たぶん出身地は信州だろう信州はどの辺りか尋ねてみたくなった。そうしたら長野市出身ということではないか。「びつこじいだ」。

これがきっかけでその人とは旧知の友のごとく話が弾んだ。奥様も須坂市の出と言うから普段は家庭でも信州弁が多いに飛び交っているんだろう。方言は飾らない普段着のようなもの、不思議な力を持つていて多いに癒されることを知りました。

私も上京して50有余年になりますが、当初は都会言葉に早く馴れて「田舎者」とバカにされないよう努力をしたものです。会話する相手に違和感を与えないように話すには、言葉を選び訛らずそしてイントネーションをつけて話す、仕事上会話はなくてはならない大事な道具のようなもの。以前、大阪に転勤した友人から聞いたことですが、大阪の顧客は商談するのに大阪弁で話さないと相手にしてくれない。だから一生懸命練習したそいで一年足らずで流暢に大阪弁を使いこなしていました。

大阪弁と東北弁はメジャーで知られていますが、ローカルな方言も各所に存在するわけで、我ふるさと信州の方言も「北信・中信・南信」と言葉が多少違うがしっかりした存在感があります。「えぼをつる」、「かんます」、「たまげる」、「べぢやる」、「げーもねえ」、「ずくなし」、「おめ」、「ちびてい」、「らつちもねえ」、「やだくなる」、「ひつちやぶく」、「なじよしたもんだ」など。

方言の話は全国どこに行つても地元の人との楽しい話題になります。しゃべる時はしかめつ面をしながらダミ声で喋るのがコツと教えてくれた人もいました。

今夏帰省して村の人と話す機会もあつたが、相手に気を使ってよそよそしく話すせいか「訛り」も「方言」も聞かなかつた。

“方言を多いに喋ろう”キャンペーンを行い、木島平を訪れた人に温かい心のもてなしをしてはどうだろうか？

写真は始めて訪れた「カヤの平」です。



柳久保区は、信心深い人々と山ふところに抱かれた豊かな農地が自慢のふるさとです。

現在の柳久保観光センターのある場所は、昔「法常庵」といって大竜寺の末寺があつた所です。大正の時代まで庵主様がおられ、区民とともに生活されておりました。

数年前には庵主様のお墓を改修し、それにともない区民で法要も行いました。

大正のなかばに大町区より分区して80有余年、その当時のエネルギーが再現して欲しい昨今です。

区民数は減少をたどり、将来は半減してしまうことが懸念されます。そこで若者が定住しやすいように、区内道路の無雪化をしたいと思つております。また区内ではいつも花が咲いている里づくりを目指しています。桜並木と紫陽花、ホタルとぶ米のおいしい、いやしのそ

の柳久保、そんなすばらしい柳久保にしたいと思っています。



▲区民の親睦が図られる作業後の懇親会

新年親睦交流会のお知らせ

【日時】平成22年1月16日(土) 正午12時から午後2時30分
【場所】アルカディア市ヶ谷(私学会館)
【会費】6000円



朝晩はめつきり寒くなり、いよいよ冬の訪れを感じる季節となりました。11月3日には初雪も降り、ふるさと木島平も辺り一面雪化粧となりました。本格的な冬はもうそこまで来ています。

ふるさと応援団木島平会の新年親睦交流会が次の日程で行われます。詳細等は会報12月号発送の際に同封しますが、あらかじめご都合の上、大勢の皆様のご参加をお願いします。